

公表

## 事業所における自己評価結果 児童発達支援

事業所名		児童発達支援 放課後等デイサービス エイド亀山			公表日	2025年 2月 19日
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	100%		全体で232㎡のスペースがある。	安全面の確保に十分気を付けるよう体制を整える。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	100%		人員配置の基準は満たしている。	体調不良等での出勤困難時にも体制を整えています。災害時にも備え職員の増員に最大限の努力をします。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	84%	16%	子どもたちがわかりやすく、活動しやすい環境を作り出し、見通しを持って安心して行動できるように日々構造化を図っています。	既存のお子さまたちだけではなく新規で来所されるお子さま、すべてのお子さまに安心して通所して頂けるよう心がけます。裏口がバリアフリーになっていないので、必要性を感じたら改善します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	100%		5Sの徹底。子どもたちが心身ともに落ち着いて過ごせるよう快適な空気環境、安全で安心してできる環境を整えています。	子どもたちの目線、気持ちになって生活空間を日々整えています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	100%		クールダウンが必要な場合等に対応できるように、個別に仕切られた空間を整えています。	安全対策も含めさらなる充実を図り、複数対応できるよう構造化に努めます。
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	100%		日々のミーティング等で周知している。	勤務形態に関係なく、すべての職員と緊密な連携をとり、質の高いサービスの提供が行えるよう努力します。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		ご意見に対して、改善に努めている。	毎年貴重なご意見をいただき感謝しています。迅速に対応できることと、お時間を頂く場合もございますが、保護者様の満足度向上に全力で取り組んでいます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	100%		日々のミーティング、会議等ですべての職員が意見できる職場環境を整え、業務改善に努めている。	勤務年数や所属等関係なくコミュニケーションがとれるように、今まで以上に風通しの良い職場を目指し、業務改善につなげていきたい。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		100%	現在は第三者評価を受けていない。	今後検討する。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	100%		オンライン研修を含め、様々な研修に積極的参加している。また、研修内容を職員間で正しく共有している。	研修案内が増えてきているので、できる限り全職員が平等に参加できるよう体制を整え、職員の質の向上に努めます。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	100%		5領域に合わせた支援プログラムを作成し、HPにて公開している。	定期的に見直しを行い、個々の支援に対応できるよう努めます。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	100%		初回に正しくアセスメントをとり、支援計画に反映している。定期的なモニタリング等で毎月支援計画の見直しを行っている。	子どものことを十分に理解し、子どものニーズに基づいた支援であり、支援者の押しつけにならないよう支援計画の作成に取り組みます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	100%		日々のミーティング、定期的な支援会議で意見交換を行い、すべての職員で共有できるよう体制を整えています。	
	14	児童発達支援計画が職員間で共有され、計画に沿った支援が行われているか。	100%		個別支援計画の重要性を再認識し、職員間で正しく情報共有をすることで、質の高い支援提供ができるよう努めます。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	84%	16%	インフォーマルアセスメントのメリットを活かし、能力やスキルだけでなく、興味や関心を把握し、環境と行動の関係性を理解できるようにしています。	その場にいる支援者と外部の評価者で異なる結果になりやすいため、フォーマルアセスメントと組み合わせる支援方法を見立てていくようにする。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	100%		本人支援は5領域に分け「ねらい」と「支援」を示しています。インクルージョンの考えを踏まえ、すべての子供が共に成長できるよう移行支援を行い、子どもの育ちや暮らしを安定させる丁寧な家族支援を行うよう心がけています。	社内研修等で職員の質の向上を図る。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	100%		子どもたちの要望や保護者様からの要望をとりいれつつ、社内で慎重に協議のうえ、全職員が参加してプログラムを立案している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	84%	16%	全職員が意見できる雰囲気作りをすることで色んなプログラムを実現することができ、四季を感じれるイベントや個別と集団をバランス	

19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	100%		スよく支援計画に反映し、実行できるように心がけています。	
20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	100%		毎日振り返りと、当日の役割分担、支援の確認を行っています。勤務形態によって参加できない職員に対しても、記録と口頭で必ず情報共有をし、支援にあたっています。	子どもたちの自立支援のお手伝いを全職員が責任をもって関わられるよう職員自身の振り返りもこれまで以上にしていきたいと思ひます。
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点を共有しているか。	84%	16%		
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	100%		全体の活動記録と個別での活動記録を毎日記録し、支援の検証・改善につなげています。	
23	定期的モニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	100%		各関係者と慎重な会議のうえ見直しを行っています。	
24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	100%		子どもの支援に深く関わっている者を参加させている。	すべての職員が参画できるよう、職員の質の向上に努めます。
25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	100%		計画相談も含め、医療機関等への同行、情報共有などを行い連携して支援に取り組んでいる。	
26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	67%	33%	施設見学や活動参加による支援内容等の情報共有、相互理解を図っている。	インクルージョンを推進していくために、一般施策への移行・併行通園、保育所等訪問支援を保護者様と慎重に検討してうえで推進できるよう取り組んでいきたいと思ひます。
27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	100%		環境の変化が多い時期になるため、施設内だけではなく各関係機関と支援内容等の情報共有を慎重に行っている。	児童発達支援と放課後等サービスの多機能施設である利点を生かして、環境の変化が極力少く済むよう、詳細な情報共有ができるように最大限努力します。
28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組を行っているか。				※児童発達支援センター以外のため省略
29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加しているか。				
31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	67%	33%	スーパーバイザーにアドバイスを受ける機会が少ない。	
32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	67%	33%	施設内での交流はあるが、外部との交流は少なく感じる。	今後は保護者様からのご意見も踏まえた上で慎重に検討していきたいと思ひます。
33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	84%	16%	今年度から参観日、個別懇談会の実施、保護者会の回数を増やし情報共有や意見交換できる時間を増やすよう努めました。	来年度からも継続するとともに、保護者様との共通理解を深められるよう最大限努力します。
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	67%	33%	保護者様向けの研修等の案内は行っているが、当施設主導でのペアレントトレーニングは現在行っていない。	日常の子育ての困りごとの解消や楽しく子育てができるよう支援するために、今後実施できるように努めます。
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	100%		契約時にご説明させていただいておりますが、より深く理解していただけるよう心がけます。	
36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点から踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	100%		子どもの意見を尊重し、反映した個別支援計画を作成するために、話す場を設けている。	子どもやご家族様の意見等を少しでも多く、個別支援計画に反映させるため、話す機会を多く作るよう取り組んでいきます。
37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	100%		個別支援計画を示しながら説明をさせていただいています。	支援員の押しつけにならないよう計画を立て、内容をしっかりと理解いただき同意を得られるように心がけます。
38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	100%		保護者参観、個別懇談会の実施、保護者会の	保護者様との時間を大切に考え、来年度から



保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	100%		回数を増やし情報共有や意見交換できる時間を増やすよう努めました。	も継続するとともに、保護者様との共通理解を深められるよう最大限努力します。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	100%		申し入れは貴重なご意見として活動等に反映させていただいています。ご相談に関しては慎重に社内で情報共有し、必要とあれば各関係者も含めた対応を迅速に行っています。	相談や申し入れができる機会を増やすことと、相談等しやすい環境づくりに努めます。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	100%		日ごろの活動を写真付きでご連絡し、極力いかなる時も連絡がし合えるよう体制を整えています。	
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	100%		組織的安全管理、人的安全管理、物的安全管理、技術的安全管理のすべての措置をとって管理しています。	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	100%		結論から話すことを心がけ、状況に応じて、できる限りわかりやすい言葉や表現、手段を用いて伝えるようにしています。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	84%	16%	地域の方を招待するイベントを行ってはいるが、回数が少なく、不定期に行っている。	インクルージョン推進の重要性を再度認識し、地域交流活動ができるよう取り組んでいきます。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	100%		安全点検・安全計画・学校との連携をとりながら支援を行っています。その他、虐待防止、防災訓練、感染症対策等の研修や訓練も行っていきます。	日頃の防災意識を高め、子どもたちや職員が迅速かつ正確に行動できるよう継続して訓練します。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	100%		BCP策定済。色んな場面を想定しての訓練を実施している。	安心して預けていただけるよう、只今、外部機関とのBCPの見直しも行ってまいります。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	100%		初回アセスメントや定期的に確認している。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	100%		アレルギーを持つお子さまには保護者様に定期的に確認している。喫食時には隣に座り見守りしています。	食物アレルギーの原因となる食品や症状は年齢とともに変化したり、いつ、誰が発症してもおかしくないとされているので、日々、保護者様と情報共有するようにしていきます。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	100%		安全点検・安全計画・学校との連携をとりながら支援を行っています。その他、虐待防止、防災訓練、感染症対策等の研修や訓練も行っていきます。	安全管理に必要な訓練・研修等の強化に努めます。
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携を図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	100%		緊急時の対応のお知らせ（改訂版）の配布を実施。外出時は外出先での避難場所等のお知らせをその都度行っている。	今後も避難場所等についてのお知らせを継続していきます。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	100%		ヒヤリハットの重要性を周知し、報告・共有・分析することで重大事故を未然に防ぐように努めています。	ヒヤリハットを軽視することなく、安全意識の向上や職場環境の改善を図り、重大事故防止に努めていきます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	100%		定期的な虐待防止委員会による研修会、チェックリストの活用、事例検討会等を実施し、外部研修への積極的参加により、職員の意識向上を図っています。	研修等だけではなく、職員とのコミュニケーションを深めるよう、風通しのよい職場作りに努めます。
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	84%	16%	現在身体拘束の必要性のある子はいませんが、身体拘束廃止委員会による定期的な研修等で、受け入れるための体制は整えてあります。		